

平成28年度 伊那市立東春近小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価(a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
たくましく 思いやりのある子ども	響き合う学校生活 相手意識の醸成 友だちとかかわり合って学ぶ、進んであいさつをする、学級の仲間と体験的な活動を通して、基礎学力を確実に身につけて、相手意識をもった子どもを育成する。また、ふるさと学習「郷育」の学習を通して地域に根ざした子どもを育成する。
○ 知恵をみがき合う子ども	
○ 心をみがき合う子ども	
○ 体をみがき合う子ども	
今年度の重点目標	
(1) 伝え合って深めよう(知)	・話をしている友だちに体と顔を向いて聞き、比較や付け加え、感想など自分の考えを持つよう指導する。 ・友だちの意見や感想を聞いて考えたり、自分の意見を比較したり、重ねたりする場面を設定する。
(2) さわやかなあいさつを広げよう(徳)	・朝のあいさつ、場に応じたあいさつ、地域に広げるあいさつ、帰りのあいさつの充実を図る。 ・子ども達や来校者に笑顔で気持ちのよい挨拶や会釈を率先して行う。
(3) みやましく遊び、働こう(体)	・児童会活動、係活動、当番活動など責任をもってできるよう支援する。 ・休み時間に校庭や体育館で元気に遊ぶように呼びかける。 ・掃除に集中し無言清掃を時間いっぱいやりとげる指導をする。

総合評価	
○重点目標「伝え合って深めよう」「さわやかなあいさつを広げよう」「みやましく遊び、働こう」を中心に教職員、児童が気持ちをそろえて目標に向かって取り組むことができた。本年度5年目となる「伝え合い」に視点を当てた授業改善の取組。児童会を中心とした児童主体による「あいさつ運動」への取組。「みやましく働く」の視点を学級の係活動、児童会の当番活動、清掃など、具体的な場面で捉え児童の自主性や責任感の向上をめざした取組。児童、保護者、職員アンケートの結果から「伝え合って深めよう」「みやましく遊び、働こう」については「達成」「ほぼ達成」が概ね80%と高い評価を得ることができた。「さわやかなあいさつを広げよう」については昨年より低調であるとの結果となり来年度に向けての課題である。 ○本年度も各学年農業体験学習に力を入れて取り組んだ。雑草をとる。水の管理をする。収穫するなどの様々な活動を通して責任感や力を合わせることのすばらしさ、収穫の喜びなどたくさん力を育むことができた。この活動は地域の方の協力を得ることも多く、ふるさと学習「郷育」、信州型コミュニティースクールの取組として継続していきと考える。 ○いじめについて、児童の丁寧な観察、児童へのアンケート、職員間の情報交換、共有化等により早期発見に努めることができた。児童の訴えに対していじめ対策委員会を中心に関係職員が丁寧に対応し早期に解決することができた。今後も家庭とも連絡を密に早期発見・対応に努めるとともに未然防止に努めるとともに児童の人権感覚の向上につながる活動を取り入れていきたい。 ○体罰について、児童、保護者、職員へのアンケート調査を行ったが本年度も該当する事案の情報提供はなかった。人権感覚を高めるための研修、指導力の向上を図り今後も体罰の根絶に努めていきたい。	
成果と課題	評価
(1)「伝え合い」を教科研究の中心テーマの1つとして位置づけ5年目。全校の教職員が全ての教育活動で共通意識を持ち取り組んだ。職員自己評価では、「自分の考えや気持ちを話す児童が増えた」と感じている教職員が78%と8ポイント向上した。「授業などで友だちの話を聞く姿が向上している」と感じている教職員が86%。(同1ポイント向上)児童アンケートでも各項目87%、96%以上の児童が自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いて考えたりするようにしている」と回答している。また、保護者アンケートではそれぞれの項目で84%、86%が自分の子どもが話をしたり、話を聞く姿勢が向上できたりしていると回答している。一昨年、昨年と「聞く姿勢」の向上が見られた。	A b
(2)児童アンケートでは低学年、中学年92%、高学年96%がよくあいさつをしていると回答。昨年とほぼ同様の結果となった。保護者アンケートでは「十分」「概ね十分」の回答が85%と昨年度より5ポイント減少という結果となった。保護者の声の中に、「学校の中ではできるけれど、地域の中ではできない」「恥ずかしがっている」などの声も寄せられている。教職員アンケートでも「元気がない」「友だち間のあいさつができない」などの指摘もあり、児童、PTAが「あいさつの向上」をめざし気持ちを揃えて取り組む必要がある。	B b
(3)朝や休み時間の校庭・体育館では学年を越えて子どもたちの姿がある。職員へのアンケートも休み時間の過ごし方について91%が「十分」「概ね十分」と回答している。児童アンケートからも93%が「とてもよく遊ぶ」「よく遊ぶ」と回答し昨年より3ポイント向上した。また、清掃は全校であてを持たせる取組や児童会を中心に無言清掃の取組を継続し精一杯に取り組む児童の姿が見られている。学級での係活動、児童会当番活動などは、責任を持って活動できる児童が増えてきている。	A b

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	○教育課程の展開	○体験活動を大事にし、個々の児童につける力を明確にした教育課程を展開しようとしたか。
		○児童の考えを大事にした教育課程と読書指導	○児童会や行事他、学校の教育課程を児童の考えを大事にして展開しようとしたか。 ○読書指導に力を入れ、朝読書の時間を有効に活用したか。
	学習指導	○わかる授業の展開	○基礎・基本を明確にし、教材の精選をして、子どもたちにわかりやすい授業を展開することができたか。
		○「伝え合い」を大切に学習指導	○「表現力」「思考力」を重視した「伝え合い」を大切に授業展開ができたか。
	生徒指導	○一人一人を大事にする学級活動	○一人一人が学級に位置づけられ、生き生きとした活動が展開できるようにしたか。 ○学級会などで、子ども自身が考え、話し合う機会をとってきたか。
		○情報の共有と組織対応	○職員会議・運営委員会・学年会などで、児童に関わる情報を提供し合い、配慮する児童の指導にあたったか。 ○いじめや不登校の問題が起きたとき、組織的に対応できる学校体制が整っているか。
学校運営	安全	○安全の確保	○集団登下校・街頭指導及び安全の日の指導は、児童の安全意識を高め、日常生活に生かされているか。 ○施設・設備について日常的に点検や管理が行われているか。
		○食育の推進	○食育を重視し、給食指導に力を入れてきたか。
	地域との連携	○家庭への発信と相談	○学校や児童の様子を家庭に伝え、相談には誠意を持って対応したか。 ○学校・学年・学級便りで家庭への情報発信に努めたか。
○地域の学習、通学路		○公民館などと連携し、地域の方に学んだり、地域について学習したりする機会を大事にしたか。 ○児童の通学における危険防止の取り組みを家庭に迅速に伝えたか。	
研修	○計画的な研修	○テーマを持って、教育についての研修や研究を計画的に進めてきたか。	
	○機能する校務分掌	○学校運営に職員の意見が反映され意欲的に取り組める環境にあるか。 ○校務分掌内の協力があり各分掌や学年間の連携連絡が円滑に行われたか。	

成果と課題	評価	改善策・向上策
○生活科や総合的な学習の時間や各教科の時間で体験活動を大事にした学習に取り組むことができた。学年に応じた農業体験活動を中心として児童の主体的な活動が定着してきた。 ○個別に支援を要する児童に対して、関係教職員が協力して支援することができた。 ○週1回のヒガハルタイム(①相談②学習③運動をローテーションで行う)の活動が定着してきた。	A b	○さらに信州型コミュニティースクールの充実を図り、体験活動を重視した教育課程を構築するとともに、NRT、CRT、P・C調査の結果から学年学級全体の傾向を分析して、個々の児童の学力向上に向けた授業改善を行う。 ○支援を要する児童への対応は関係職員がチームを組んで指導支援し、状況によって外部機関とも連携を進めていく。
○児童会活動では、今年度の重点目標と連動させた月の生活目標を設定し、各委員会活動や児童集会に反映させて取り組んだ。教職員が児童の主体的な活動に繋がる支援に心がけ、その中で主体的な活動や自主的な取り組みが増えてきた。 ○児童アンケートでは高学年の85%、中学年92%、低学年の94%が読書を好きと回答している。朝読書、図書館司書による読み聞かせや本の紹介、読書ボランティアの活動など充実できた。	A b	○児童会活動では、「児童の考えを大事に計画段階から実施までの見直しを持ち、達成感が持てるよう支援する。全校体制で支援できるように提案と反省を確実に行う。 ○家庭での読書の充実に向けて、学級便り、学校だよりなどを通して啓発活動を充実させる。朝読書の時間の充実や本の紹介等力を入れる。また、読み聞かせボランティアの活用を定着・発展させる。
○わかりやすい授業の展開については職員自己評価では94%、児童アンケートでは93%が「十分」「概ね十分」としており高い数値を出している。また、児童の評価もが保護者アンケートでも96%が「分かりやすい授業を工夫している」と回答し評価された。	B a	○授業では「ねらい」「めりはり」「みとどけ」の3観点を意識した授業を心がけていく。 ○単元テストや学力調査の結果から知識理解の定着が確実に児童については、放課後学習を活用したり個別指導の時間をとったりして、つまりに合った支援していく。
○職員自己評価では79%が「当てはまる」「概ね当てはまる」と回答。これは昨年とほぼ同様の結果である。さらに全校職員が共通意識をもって「伝え合い」を視点にした授業改善に取り組むことが課題である。 ○児童アンケートからは高学年になるほど、意識面で「伝え合い」が消極的になる傾向が見られる。	A b	○教師、児童が「話し合いのスタンダード」を共有し、「伝え合い」を意識して授業に取り組む。考えをまとめ、発表する場面や発問に心がける。 ○学級会、児童会の活動場面で話し合い活動が充実するよう支援していく。話し合われたことが実践され、実現し達成感がもてるよう支援する。
○全教職員が、子どものよさを認め励ますプラス評価を大事にすることを共有して取り組んだ。職員自己評価では全員が一人一人を位置づけた学級活動を展開できたとしている。児童アンケートでは89%の児童が「学校は楽しい」と回答した。一方で「楽しくない」と回答した児童は3%でと回答しており課題としてとらえていきたい。 ○職員自己評価で「児童会や学級会で話し合いを大切にしたい」が88%であった。	A b	○学級での話し合い活動、係活動の充実を図り、集団への帰属意識が高まるように支援する。また、Q・Uを活用した学級運営に努める。 ○相手意識の向上を目指して「伝え合い」を大切にし、学級の仲間一人一人が互いの良さを認め合う場面や全員で協力してやり遂げる活動を多くしていく。また、児童会活動を通して児童主体の楽しい活動ができるよう支援していく。
○職員会議で毎回児童理解について話し合う情報の共有の場を設けた。毎月の状況調査で気になる児童の行動や事案については情報を共有し、指導の方向を確認し、関係教職員が同一歩調で迅速に対応・指導することができた。 ○いじめや不登校に対応する学校体制については、適応指導委員会を持ち現状把握から方向性を確認し、S・C、市相談室などと連携することができた。	A a	○正確な事実の把握と教職員間の情報の共有化を図る。また生徒指導カードなどを活用し指導の経過を記録し、指導の一貫性を図る。 ○不登校傾向の児童の支援については保護者の理解を得ながら、担任、養護教諭、心の相談員、教頭などと、連絡を密にチームとして指導する。また、関係機関との連携しながら迅速・適切な支援に心がける。
○職員自己評価では安全指導については100%、施設点検については95%が「十分」「概ね十分」と高い評価であった。各学期最初の週には小集団での集団登校を行い、職員やPTAの方が歩行的な様子や街頭指導した。毎月の安全点検日には全職員で校内の施設・設備点検を行い、不具合があれば迅速に対応した。	A a	○各地区のPTAの役員と共に街頭パトロールを行う。地域の方からの情報に迅速に対応する。集団下校では通学路の危険箇所について、その場で安全指導を行う。 ○毎月の安全点検とともに、校内巡視では高所から落下や転倒のおそれがないかどうか、壁に突起物がないかなどについてなど子どもの目線で点検し、修理は迅速に対応する。
○農業体験学習で児童の育てた野菜やお米などの食材を献立に取り入れるなど積極的な取り組みができた。また、食物アレルギー調査の実施、食事のマナーや配膳時の身支度についての指導や児童会給食委員会の校内放送や給食だより、読書月間に合わせたコラボ給食、保護者へ食育に関わる啓発等による「食」に対する意識の向上に努めた。	A b	○児童が育てた食材をできるだけ献立に取り入れる。 ○食物アレルギーのある児童については家庭との連絡を密にし、給食や調理実習、校外学習での食事などでも十分配慮をする。イベントも常備し緊急時に備える。 ○栄養職員が食育の啓発活動を行うとともに、より楽しい給食を目指し取り組む。
○保護者に対しては学級学年通信や学校だよりを中心に情報発信に努めると共にホームページの充実を図り広く地域の方にも情報発信するよう努めた。保護者アンケートでは98%以上が「学校は児童の活動を伝えている」と回答している。教職員アンケートでは「職員は相談に誠意をもって対応した」と100%が回答している。	A a	○学校・学年・学級便りをタイムリーに発行して、保護者や地域の方が児童の様子、学校の考えや願いをさらにわかるようにする。また、必要なことは顔を見て直接相談・連絡するようにする。子どもの良さが多く伝わるようにする。
○公民館主催事業の二分之一成人式や森の音楽祭、夏休みの子どもも体験学習。地域の方を講師とした農業体験学習、リンゴ体験学習、PTA林作業や注連縄作り等公民館や地域の方との連携が積極的にできた。安全面の取組では地域や、関係機関より寄せられた情報を基に学年に応じた注意喚起の指導や家庭への情報提供など迅速な対応に努めた。	A a	○年々地域の方や公民館との連携した取り組みが増えてきている。また信州型コミュニティースクールが充実するよう取り組む。 ○寄せられた情報に迅速かつ適切に対応する。また、集団下校や街頭指導において職員が通学路を歩き、安全について確認し事故等の未然防止に努める。
○本年度は「低学年部会」「中学年部会」「高学年部会」の3部会体制で研究を進めた。「伝え合い」を視点とした国語の授業研究。地域素材の教材化に取り組んだ社会科の授業研究を行い、研究を深めることができた。 ○職員研修では松田教育長や心理士を講師として招き、教師としての力量を高めることができた。	A b	○「伝え合い」は、児童の表現力育成のための各教科共通のテーマである。本年度の成果をもとに各自の実践に活かす。また、自らの研究課題については各種研修研究会に積極的に参加して研鑽を重ねる。 ○一人一公開授業を通してお互いに学び合う。
○学校運営に職員の意見が反映され意欲的に取り組める環境にあること。自己評価は「十分」「概ね十分」が95%で昨年より14ポイント増加した。大幅に改善された。	A a	○活動に対する見直しをさらに充実させ、職員一人一人が学校運営に積極的に参加しやすくする。また、報告・連絡・相談を大事にし、チーム力の向上を図る。

